

ふるさと奥尻通信

平成28年2月29日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

一昔前の北海道の場合、修学旅行先は小学校なら洞爺湖周辺、中学校なら青森や秋田など北東北、高校なら東京、奈良・京都、広島というのが一般的でした。

特集 明治34年の修学旅行

学校時代の思い出と言えば、修学旅行を思い浮かべる人も多いでしょう。今でこそ、飛行機や列車で長距離を移動しますので、道外、県外へ簡単に旅行することが出来ます。しかし、交通手段の限られていた時代、それも明治時代となると、話しは簡単ではありません。

今回は明治34年(1901)に奥尻島の対岸、久遠(せたな町大成区)の久遠小学校が奥尻島へ修学旅行に来た話しをご紹介します(北海道教育雑誌第102号所収)。

明治34年、同校は奥尻島を徒歩で全周するという前代未聞の修学旅行を計画し、6月4日朝に函館の服部半左衛門所有の汽船「回陽丸」(82トン)にて久遠港を出港、一路奥尻島を目指しました。高山豊久校長、熊原恭訓導らに引率された高等科男児46名が参加していました。見送りには1000人を超える村人が集まり、菓子類、果物類などを差し入れ、あたかも出陣を見送るような光景だったそうです。奥尻海峡を渡り、昼過ぎに釣懸(現奥尻)に到着、上陸後青苗へ向けて島の東海岸を徒歩で南下、釣石尋常小学校(現奥尻小、当時は谷地にあった)で休憩。



児童と見送りの人々 久遠小学校提供



初代の稲穂灯台 大正初期頃



釣懸港沖に停泊する汽船 明治末期

赤石、長浜海岸を通過して、薬師(現松江)へ。今のような道路もなく、原始林を抜ける様は、あたかもジャングルを行軍するかのようだったでしょう。途中、大かかり石(海上に顔を出した岩)の前で休憩、弥右衛門崎を越えて初松前の集落に至ります。ここから南端の青苗までは砂丘が続き、歩きにくい中ようやく青苗小に到着して厨川校長以下、村民らの盛大な歓迎を受けました。初日の行程は大変過酷であり、就寝した頃には夜明け前の3時になっていたのです。

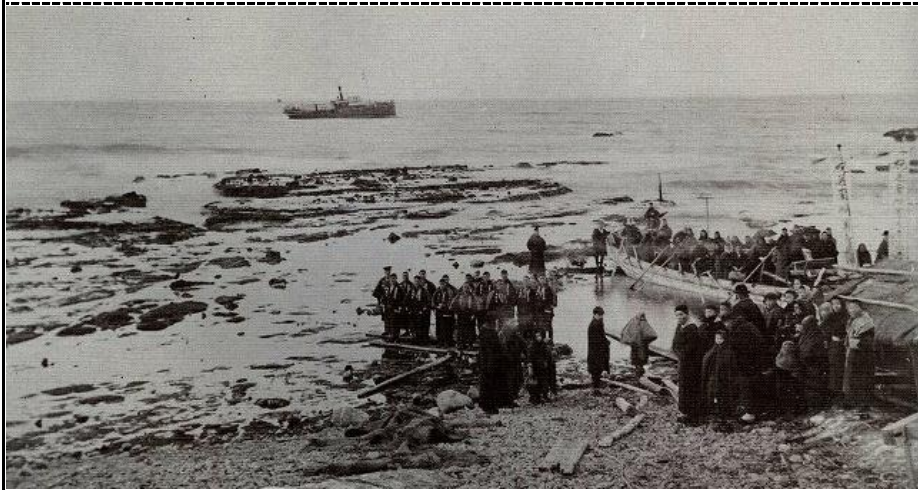
5日、朝8時に地元民の案内により青苗を出発。貝取澗から寺院跡と伝わる大寺屋敷を通過して、貝殻塚(場所不明)、防風浜(フハマ)を経て正午に千畳敷に至りました。当時、奥尻はホタテ貝の一大生産地だったようで、いたる所に貝殻が山になっていたそうです。その後、西海岸沿いに歩き、藻内川、ホヤ石、神威岩、清次郎歌浜、屏風立岩、穴澗岬と島の奇岩を見ながら、幌内温泉(現在は廃止)に到着し、ここで一泊。6日、朝7時25分温泉を出発し、勝澗方面へ向かおうとするも、ここから先は断崖絶壁で徒歩不可能のため、磯船を借りようしますが、ちょうど「マナコ」(ナマコ?)漁の時期で一艘も借りられず断念。内陸を歩くことになり、南瓜峠(場所不明)を越え、白水川の北で真珠岩(パーライト)を拾い、「休場」で昼食。釣掛(奥尻本村)に到着すると、そのまま東海岸を北上して茶津(宮津)へ行き、禿智耀師と面会。山越えをして西海岸の菰澗小学校へ至り、ここで宿泊。7日、稲穂灯台を見学して東海岸を南下、途中に弁天岬の弁天社(町指定文化財の宮津弁天)へ参拝。夕方釣掛に到着し宿泊。8日は足止めとなり、9日午後1時30分に函館から来た汽船「魁益丸」に乗って久遠へ。午後4時20分、無事に帰校しました。



修学旅行の行程



明治36年の茶津尋常小学校の校舎と生徒



表面特集記事の、久遠尋常高等小学校が奥尻へ修学旅行に出発する時の光景です。明治34年6月4日のことです。奥に見える汽船「回陽丸」に乗り込むために舢舨(はしけ)に乗っている大勢の人たちが見えます。同船は午前10時30分に奥尻へ向けて出港、12時過ぎには奥尻へ到着しています。同船は、函館の有名な汽船船主だった服部半左衛門所有の船で、多くの児童を乗せるために、函館港から空荷でやってきたのでした。回漕業者としては、空で走らせることは大きな損失でしたが、服部は往復の輸送を寄付した形となりました。

池田貴夫



なにこれ!? 北海道学

学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

なにこれ!?北海道学 池田貴夫

北海道にまつわる風習や習慣、日常のあれこれ、食文化にいたるまでを、細かく見直してみたのが本書。学芸員の見地から、普段は気にもとめなかった事が、実はちゃんとしたルーツや理由があったのだった。筆者は奥尻にも造詣が深く、米岡の用水路、米岡神社の句集額、名物ホッケのこっこ(卵)についても述べている。なるほどなあ、と思わず納得。

月刊 奥尻のつり 2月号

2月に入り、冬本番ということで寒さも厳しくなり、呑気に釣りをするには厳しい季節となりました。すでに港でのヤリイカ釣りは終了し、陸や船からのサクラマス釣りがメインです。がしかし、陸からの釣果はほとんど聞かれなくなってしまいました。船釣りでは日によって釣果にバラツキがあるものの、銀色の鱗を見る事が出来ています。ところで、このマス釣りにはライセンスが必要で、船釣りの場合のみ、漁業者2500円、プレジャーボート7000円、遊漁・漁業兼業者25000円の協力金を払います。期間は1月10日～5月21日まで、1人竿1本、10尾までというきまりを守って楽しむこととなっています。陸から釣る分には協力金は不要ですが、環境保護、自然保護のためにはマナーを守り、譲り合いの精神で楽しみたいところです。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第6回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より

てと分と兄にと番上取尚がんと切ん豆着しか
い言早同三仕言兄手りも俺ぶ頃りどのいたらい
たつくじ番事っはだにーは早兄かん切たーはであ
。たな位兄をた働ね行生只いたけ、りらまき鳥の
らっだにしのきーっ懸ーんちし飛か服だっに日か
他たっはたで乍とた命んで来てんけは誰と出から
のなた勝。初らほ頃だーな来いでによも強てら
兄俺。っ昼めーめ母。といたたいかご見くい昨日
達達一た頃か競てが兄言か。らる、れえ働た日
も負番が迄ら争く来達っー三。っいなこん迄
母け兄、にーすれてはたと清四一たたいうだ何
もるはーは生るたー唐だ言三分生。。。と。も
笑でー番二懸べ。随揪けっがた懸霧す鳥決今書
っー隨兄番命ー一分とでたずっ命どぐに心日か

次回につづく

がは一欠達しがのしし尻
そ雪息航しか出でいたま周
ろ解のしたもるすく。い辺二
そけ奥ておちとがらこ、が十
ろが尻しかよは、いの航深三
。進でまげう予まの時空い日
みしいでど想さ暖期機霧と
、た、フ低外かかにがに十
春。ちエ気で二さし欠包四
のこより押し月だて航ま日
気のっーがたにつはしれは
配週とも発。霧た珍まで奥

濃霧は春の使者?



盛んに意見を出し合う参加者たち

のな模にまけ士こすしれよ究タ
でがに悩してでのるま、る室一二月
すらあむたののアしニワ(に二月
。、つ当。試意結んた五(山に二
將た町少み見果ケ。名ク本、十
来施で子な交発。昨余シ清岩一
に策す化ど換表ト夏のヨ龍手日
臨をがやがやとを、町ッ准大に
み皆、人発將、実観民ブ教学海
たでそ口表来町施光がが授山洋
い考の減さへ民しに参行一本セ
もえ規少れ向同た関加わに研

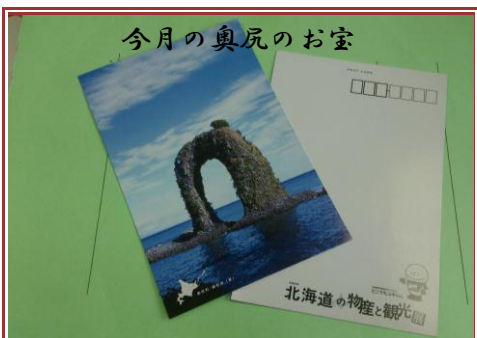
岩手大学WS行わる

ら奥し番位りがロ昨実ばね
、尻てとと、ゾ冬にれ。今冬
集のおいなべ最イ、春たがは暖
客魅力うリス終のーがりも降
に力まこまト的大人近も暖冬
のすとしラに物でづつたのよう
な一。でた。キ北りいて、う
がで物大全ン海でいたが急
ばす釣変道グ道しいますがす
と。のたす。にす
は足二二つク。確し

新茶之記録(編集後記)

でる今不こすま念弁跡定り財
、こ後足とるで碑天、史まの島
英とはしか看、一宮、跡す。明に
語が外がら、がれ三、指一設看
表予国ち、一現らカ町定青置板
もさ客し般地を所指定文苗箇をす
まも受へに詳で定化砂所製指
すすけま周かく。徳一遺、作定
。の入た知つ説こ洋宮、道て文
れ、がた明れ記津 指お化

指定文化財説明看板製作中



なべつる岩の絵はがき 平成27年